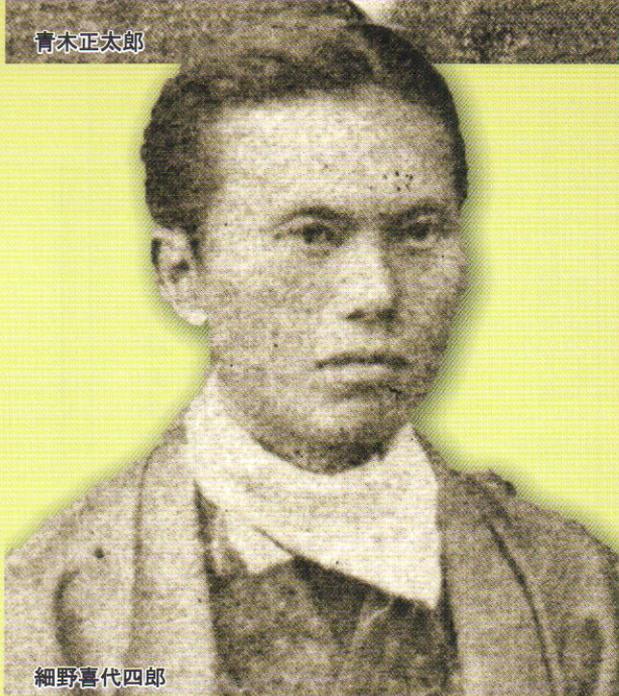




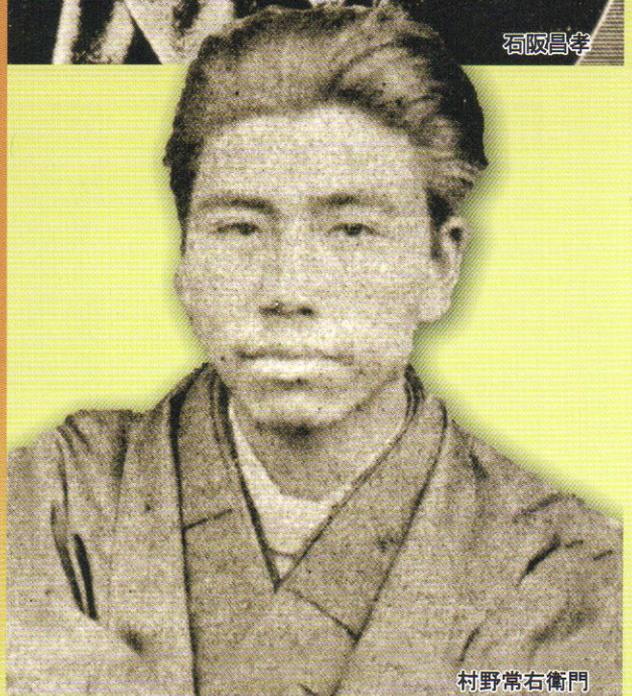
青木正太郎



石阪昌孝



細野喜代四郎



村野常右衛門

町田の民権家たち

2020年10月24日(土) ~ 2021年3月28日(日)

町田市立自由民権資料館

〒195-0063 町田市野津田町897番地
TEL 042-734-4508

開館時間 午前9時～午後4時30分

休館日 月曜日(祝休日の場合は開館し、翌日が休館)
年末年始(12月28日～1月4日)

交通 鶴川駅—5番バス乗り場より野津田車庫行・本町田經由町田駅で「綾部入口」下車
町田駅—小田急北口POPビル先21番バス乗り場より本町田經由野津田車庫行・本町田經由鶴川駅で「袋橋」下車



入館無料



町田市立自由民権資料館(町田市公式)
Twitter machida_minken



QRコードから簡易検索

町田市立自由民権資料館リニューアル記念第2弾 2020年度第2回企画展「町田の民権家たち」

—— 開催にあたって ——

自由民権運動が盛んだった明治10年代、町田市域を含む南・北・西多摩3郡は、神奈川県に属しており、神奈川県は武蔵国のうちの6郡と相模国9郡により構成されていました。明治13年頃までの神奈川県内の運動は、武蔵・相模で分かれて展開することが多く、それを1つにまとめ上げようと県内に呼びかけたのが現町田市域の民権家たちでした。その背景には、現町田市域が武蔵国と相模国の境界線にあり、神奈川県全体の中心部に位置すること、市域を含んだ南多摩郡が、7つの郡に接していて、県全体を束ねるのに最も適した地理的位置にあったことがあげられます。

また、開港場横浜を抱えた神奈川県は、欧米諸国の文物に触れる機会が多く、最も影響を受けやすい環境にありました。西洋文化に影響を受けて盛んになった県内の自由民権運動を、1つにまとめあげるエネルギーにあふれていたのが、現町田市域に生まれた民権家たちだったともいえるでしょう。

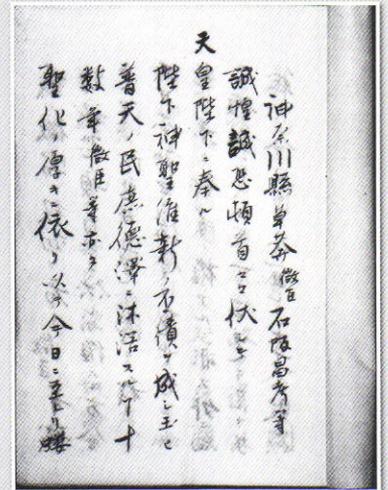
本展では、神奈川県自由民権運動の最高指導者である石阪昌孝、政治活動とともに地域経済の活性化に奔走した青木正太郎、石阪昌孝の後継として大正期の政党政治で活躍する一方、青木とともに経済振興にも尽力した村野常右衛門、地方行政・政治の場で奔走し、文化人としても足跡を残した細野喜代四郎という市域を代表する4人の民権家の事績や関連する史料を紹介します。



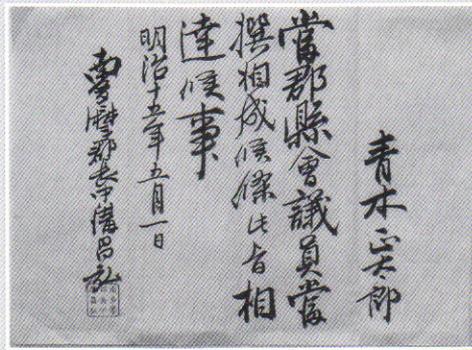
「融貫社規則」
(真光寺・小野三陽家)



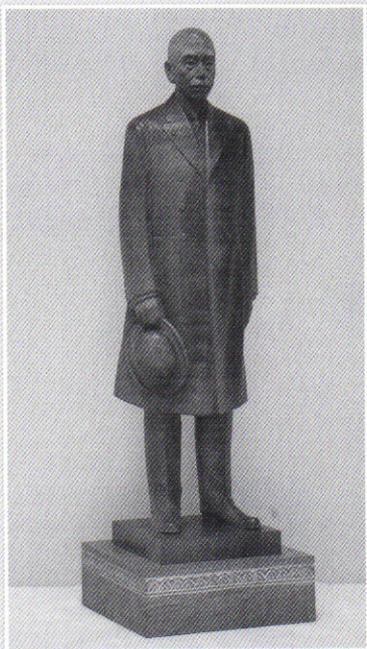
細野喜代四郎の融貫社加入金
仮領収証(小川・細野武文家)



南多摩郡の国会期限短縮建白
(相原町・青木家)



青木正太郎宛宛県会議員当選通知
(相原町・青木家)



村野常右衛門木像
(野津田町・村野婉子氏)



村野日誌
(野津田町・村野浩太郎家)



『東京府南多摩郡南村誌』
(小川・細野武文家)